

野菜の需給・価格動向レポート(平成27年5月11日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	4月の価格情報				5月 (参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	生育及び価格の5月の見通し		
	(参考) 指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額							
	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	上旬	中旬	下旬				
葉 茎 菜	キャベツ 	84.37	105	123	124	84.37 67.20	<ul style="list-style-type: none"> 千葉産は、少雨傾向のため生育が遅れ、現在は平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は、出荷のピークを迎えることもあり、平年並みの出荷の見込み。神奈川県産は、全体的には生育が順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 千葉産及び神奈川県産の出荷が、平年並みと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づき見込み。 	
		86.69	87	111	142	86.69 81.66		
	ねぎ (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ) 	264.10	231	352	321	264.1	<ul style="list-style-type: none"> 茨城産は、生育が順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、春ねぎの出荷は終盤を迎えているが、次作の初夏どりの生育が順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉県産は、病害虫の発生により、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 茨城産、千葉産及び埼玉県産の出荷が平年並みもしくは平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年に近づき見込み。 	
		334.73	334	408	535	334.73		
	はくさい 	67.05	91	140	133	67.05	<ul style="list-style-type: none"> 茨城産は、作付面積の減少に加え、4月中旬までの降雨、低温、日照不足等の影響による定植や収穫の遅れがあったことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 茨城産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。 	
		77.96	85	141	146	77.96		
	ほうれんそう 	376.10	534	650	592	376.10	<ul style="list-style-type: none"> 群馬産は、4月上旬の天候不順の影響から回復し、生育が順調であることから平年並みの出荷の見込み。茨城産は、最近の少雨傾向により、現在は平年よりやや少なめの出荷となっているが、生育は順調であることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 群馬産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づき見込み。 	
		396.89	502	700	710	396.89		
	レタス (結球) 	156.23	183	213	218	156.23	<ul style="list-style-type: none"> 茨城産は、現時点では平年並みの出荷となっているが、4月上旬の降雨とその後の気温の上昇により、品質の低下が懸念されることから、今後は平年よりやや少なめの出荷の見込み。長野産は、4月上旬の天候不順による生育の遅れから回復し、現在は生育が順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 茨城産及び長野産の出荷が平年並みもしくは平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みもしくは平年を上回って推移する見込み。 	
		165.00	199	240	249	165.00		
	たまねぎ 	91.24	95	101	109	71.02	<ul style="list-style-type: none"> 佐賀産は、4月中旬までの降雨により収穫が遅れ、現在は平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後、出荷の主体となる早生種の生育は順調であることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 佐賀産の出荷は平年並みと見込まれるものの、5月からは平年の価格水準が下がる時期となることもあり、現在平年を上回っている価格は、平年並みに近づき見込み。 	
		91.24	99	111	117	71.02		
果 菜	きゅうり 	253.93	290	480	294	189.84	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉県産は、昨年の雪害による作付面積の減少に加え、4月の天候不順の影響で、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。群馬産は、最近の気温の急激な上昇の影響があるものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、天候の回復を受け、現在は平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。 埼玉県産、群馬産及び千葉県産の出荷が平年並みもしくは平年よりやや少なめと見込まれることに加え、5月からは平年の価格水準が下がる時期となることもあり、現在平年並みまで下がってきた価格は、平年並みもしくは平年を上回って推移する見込み。 	
		242.77	270	504	292	177.22		
	トマト (大玉) 	339.78	406	394	393	209.59	<ul style="list-style-type: none"> 熊本産は、4月中旬までの低温、日照不足の影響により着色が遅れているため、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。栃木産は、4月の天候不順の影響により、平年よりやや少なめの出荷となっていたが、病害もなく天候も回復していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。愛知産は、4月中旬までの低温、日照不足の影響により着色が遅れているため、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 熊本産、栃木産及び愛知産の出荷が平年並みもしくは平年よりやや少なめの出荷と見込まれることに加え、5月から平年の価格水準が下がる時期となることもあり、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。 	
		321.78	379	368	369	228.53		
	なす 	347.77	376	472	425	297.07	<ul style="list-style-type: none"> 高知産は、4月の日照不足などの影響により、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、天候の回復により今後は平年並みの出荷の見込み。福岡産は、4月の日照不足などの影響により、現在平年よりやや少なめの出荷となっており、天候の回復はあるが、急激な増加は見込めず、引き続き平年よりやや少なめの見込み。 高知産及び福岡産の出荷が平年並みもしくは平年よりやや少なめの出荷と見込まれることに加え、5月からは平年の価格水準が下がる時期となることもあり、現在平年を上回っている価格は、平年並みに近づき見込み。 	
		330.95	359	453	426	271.01		
	ピーマン 	308.36	557	538	598	308.36	<ul style="list-style-type: none"> 茨城産は、天候の回復に伴い、現在は平年並みの出荷となっているものの、今までの天候不順の影響により根の張りが弱く、草勢も弱いことから、今後は平年よりやや少なめの出荷の見込み。 茨城産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。 	
		283.10	499	465	550	283.10		
	根 菜	だいこん 	86.59	103	119	118	86.59	<ul style="list-style-type: none"> 千葉産は、天候不順の影響による播種の遅れに伴い、肥大も遅れていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年よりやや少なめの出荷と見込まれることから、平年を上回っている価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。
			94.24	88	90	98	94.24	
		にんじん 	156.99	113	146	142	156.99	<ul style="list-style-type: none"> 徳島産は、4月中旬までの降雨の影響から出荷が遅れが生じていたものの、最近の天候の回復により、現在は平年並みの出荷となっている。特段の病害虫の発生も見られないことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、4月の天候不順の影響から生育にやや遅れが見られ、現在平年よりやや少なめの出荷であるが、今後は天候回復に伴い平年並みの出荷の見込み。 徳島産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。
	148.36	123	146	136	148.36			

種類	4月の価格情報					5月	生育及び価格の5月の見通し
	(参考) 指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格			(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格		
	上旬	中旬	下旬				
いも	さといも	-	-	-	-	-	〈入荷量が少ないため、見通しは省略〉
	ばれいしょ	131.80	147	175	195	131.80	
	ばれいしょ	131.80	122	171	212	131.80	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：9.870t (95) ・主産地：長崎 (47)、鹿児島 (32)、北海道 (12)
	ばれいしょ	131.80	122	171	212	131.80	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：4.300t (93) ・主産地：長崎 (65)、鹿児島 (18)、北海道 (12)

注：1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均で(消費税は除く。)保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を150%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局が公表する「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価格を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。
8 キャベツの平均価格は、上段が5月1～15日まで、下段は5月16日～31日までの価格である。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、3月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、4.921gで前年比99%、購入金額は、1,939円で同103%となった。
また、小売物価統計によると、4月のキャベツの小売価格は、268円で過去5か年平均比110%、レタスは、521円で同115%となり、キャベツ、レタスともに過去5か年平均を上回った。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額(1人当たりの購入数量と購入金額)

年	過去5か年平均		平成26年		平成27年	
	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)
1月	4,272	1,640	4,379	1,775	4,374	1,755
2月	4,485	1,666	4,646	1,742	4,609	1,761
3月	4,868	1,811	4,958	1,878	4,921	1,939
4月	4,765	1,855	4,871	1,887		
5月	5,089	1,917	5,146	1,993		
6月	5,056	1,902	4,998	1,976		
7月	4,402	1,737	4,542	1,770		
8月	4,315	1,731	4,275	1,846		
9月	4,688	1,844	4,745	2,035		
10月	5,191	1,902	5,455	1,973		
11月	4,990	1,700	5,291	1,704		
12月	5,146	1,927	5,233	1,977		

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」
注：過去5か年平均は、平成22～26年の平均。

主要野菜の小売価格(東京都区部)

	キャベツ			レタス		
	過去5か年平均	平成27年	5か年比(%)	過去5か年平均	平成27年	5か年比(%)
	1月	212	229	108	684	827
2月	223	202	91	631	576	91
3月	205	169	82	500	511	102
4月	243	268	110	453	521	115
5月	163			365		
6月	137			317		
7月	160			332		
8月	138			400		
9月	158			591		
10月	174			469		
11月	164			429		
12月	172			546		

資料：総務省「小売物価統計調査報告」
注：1 過去5か年平均は、平成22～26年の平均。
2 平成27年4月の値は、4月中旬の速報値。

3 野菜の輸入動向

3月の野菜の輸入を貿易統計で見ると、生鮮野菜は、前年同月比94%の9万1千トン、加工野菜は同89%の13万6千トン、野菜全体は、同91%の22万7千トンとなった。このうち中国産野菜合計は77%の9万2千トンとなった。
生鮮野菜、加工野菜ともに前年を下回ったことから、野菜全体においても前年をかなりの程度下回った。

野菜の輸入数量

区分	平成25年		平成26年		平成27年1～3月		平成27年3月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比	前年同月比	
生鮮野菜	854,042	90	884,735	104	223,274	81	90,781	94
加工野菜	1,854,162	97	1,784,891	96	412,872	93	136,228	89
野菜合計	2,708,205	95	2,669,626	99	636,147	89	227,009	91
うち中国産野菜合計	1,415,762	97	1,409,144	100	315,643	89	92,050	77
中国産シェア	52		53		50		41	

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料：財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入数量

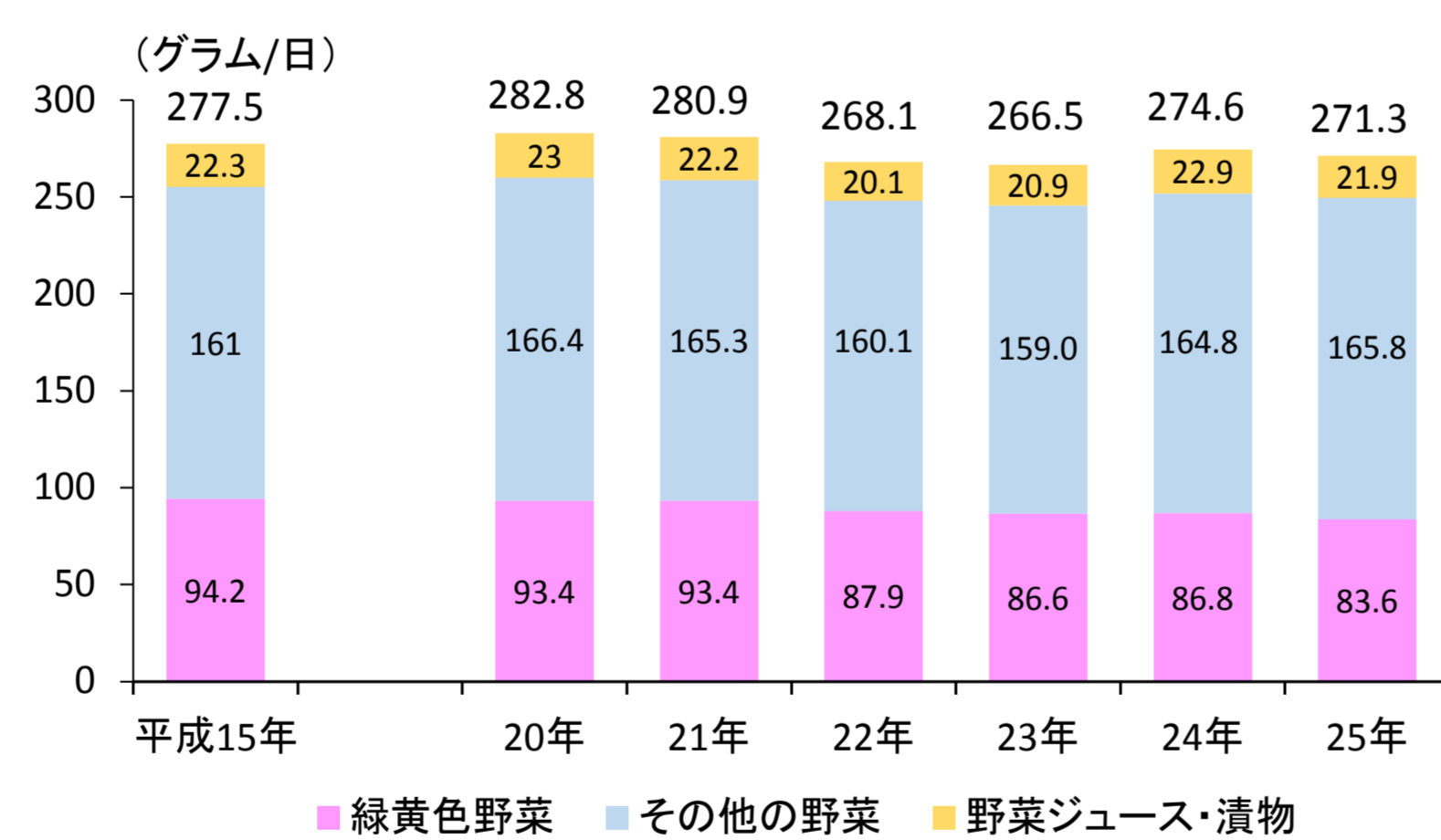
品目	輸入先	平成26年3月(A)		平成27年3月(B)		(B)/(A)
		前年同月比	前年同月比	前年同月比	前年同月比	
たまねぎ	合計	32,777	27,522	84		
	中国	23,134	21,573	93		
	米国	2,177	2,850	131		
にんじん	合計	8,623	5,707	66		
	中国	4,771	4,236	89		
	ベトナム	1,676	825	49		
ねぎ	合計	5,258	4,101	78		
	中国	5,197	4,088	79		

資料：農林水産省「植物防疫統計」
注：平成27年3月は速報値。
輸入数量は、検査数量である。冷凍を除く。

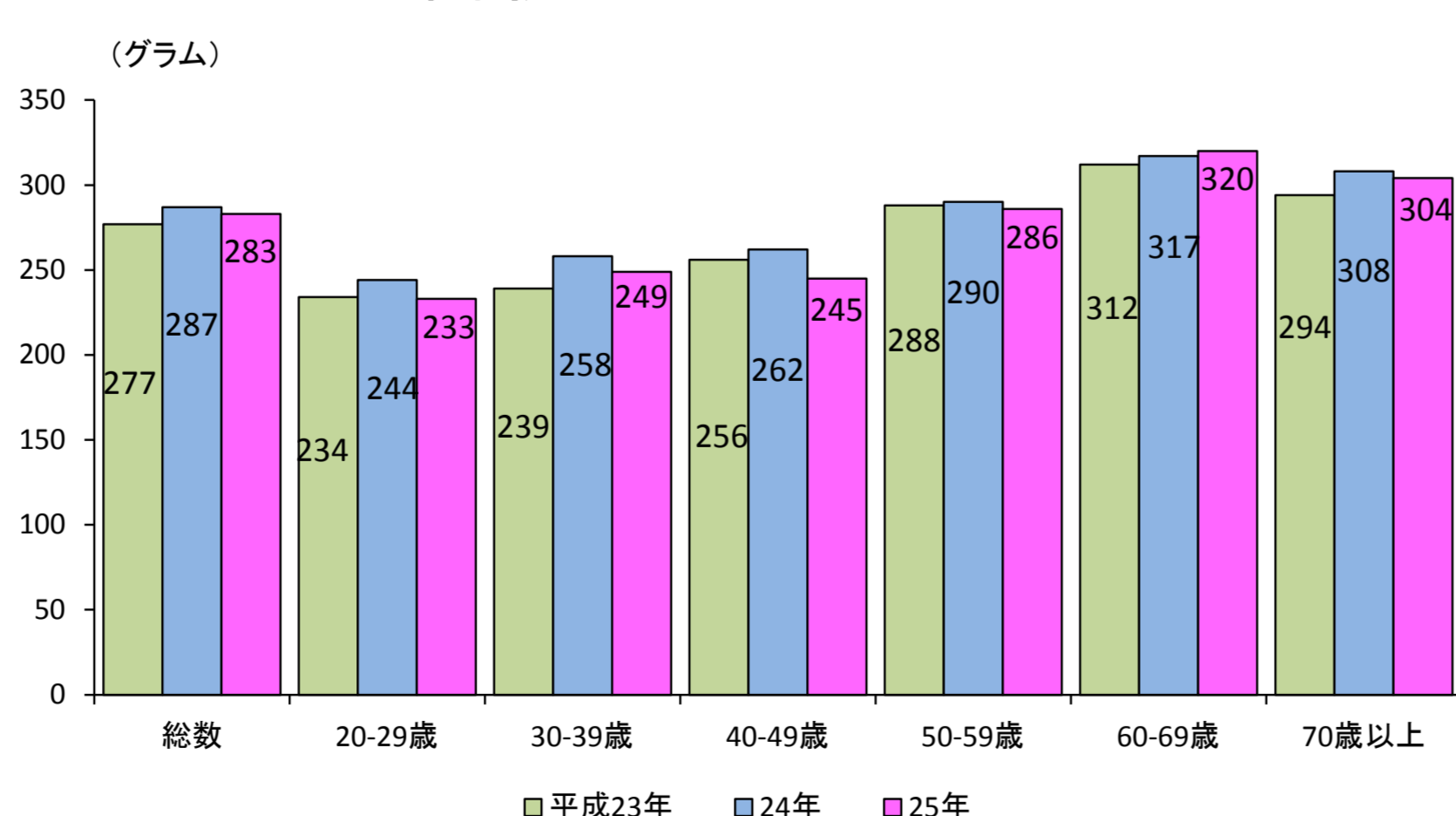
4 トピック — 平成25年「国民健康・栄養調査」からみた野菜の消費動向 —

平成27年4月公表の平成25年「国民健康・栄養調査」からみた、最近の野菜消費の特徴を紹介する。
野菜摂取量の目標は、厚生労働省の「健康日本21」では、健康増進の観点から、1日当たり350グラム(うち緑黄色野菜120グラム)とされているが、25年の野菜類(野菜ジュース、漬物を含む)の摂取量は、前年比▲1.2%の271.3グラムとなり、目標を下回る水準が続いている。15年の摂取量と比較すると、その他の野菜が増加(15年：161.0グラム→25年：165.8グラム)する一方、緑黄色野菜は減少(15年：94.2グラム→25年：83.6グラム)しており、20年以降もこの傾向が続いている。
また、品目別の動向を、データが揃う23年以降で見ると、ほうれんそうなどが減少する一方、サラダやカット野菜の需要が堅調なトマト、にんじん、キャベツなどが増加している。
さらに、年代別では、20歳以上をみると、20～29歳層が最も少ない一方で、60～69歳層が最も高くかつ増加傾向にあるが、70歳以上では25年度には前年比で減少するなどの動きも見られる。
これら野菜摂取量の変化には、食の外部化の進展等に伴う摂取形態の変化も一部で影響しているとみられる。例えば、同調査をもとに、朝・昼・晩の一日の食事を家庭食、調理済み食及び外食・給食の別にその割合を見ると、最近では昼と夜で調理済み食が増加している。(調理済み食の割合(23年→25年)：昼：7.6%→8.7%、夜：4.2%→4.5%)
また、「食料・農業及び水産業に関する意識・意向調査」(平成27年3月、農林水産省)の「中食の利用状況」においても、総菜類を週1回以上利用する消費者は51.1%を占めている。
今後、野菜の摂取量の増加を図るためには、このような摂取形態の変化にも着目した生産・供給の取組強化が求められている。

野菜類摂取状況(1日当たり)

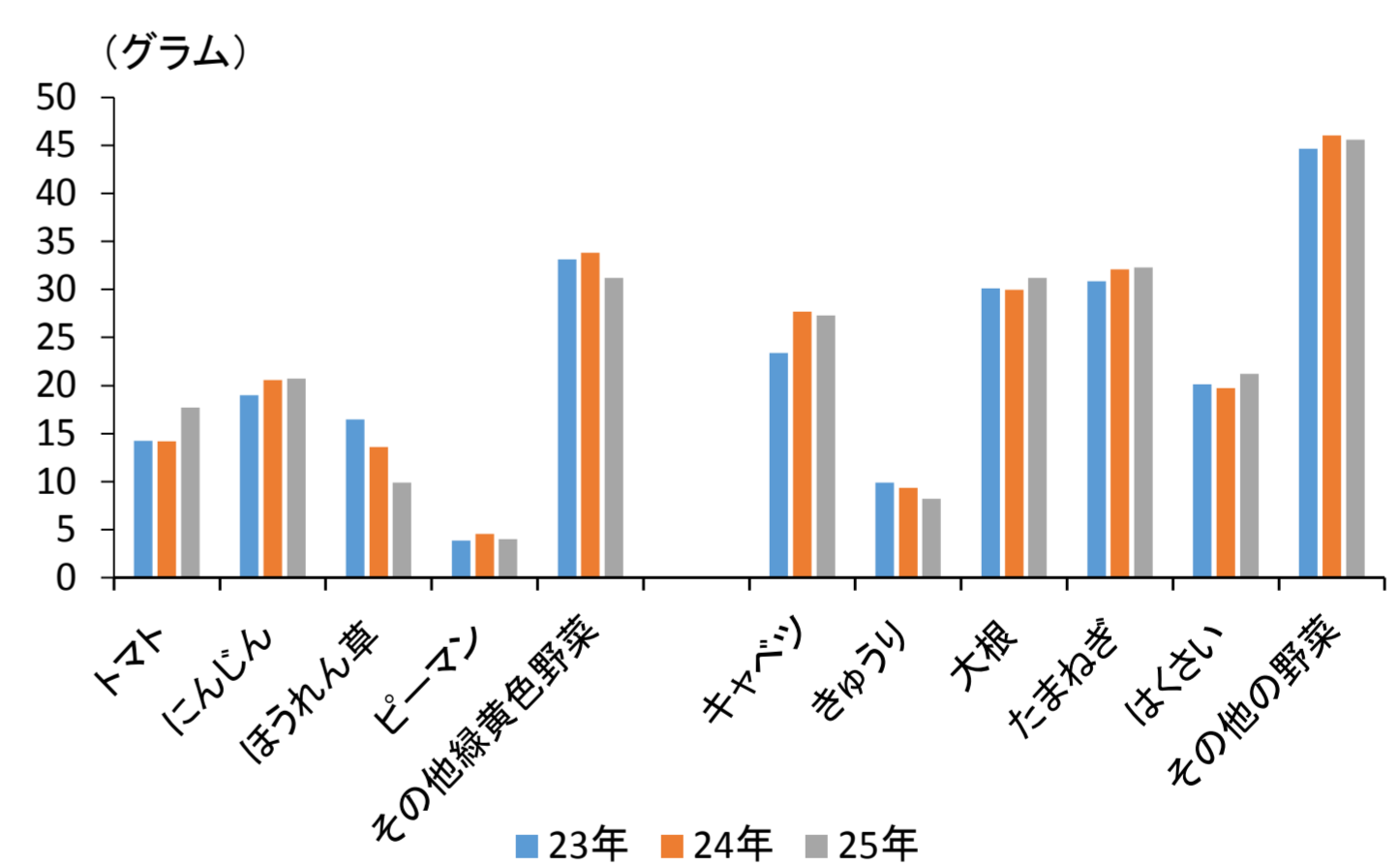


年代別野菜摂取量(成人1人1日当たり)

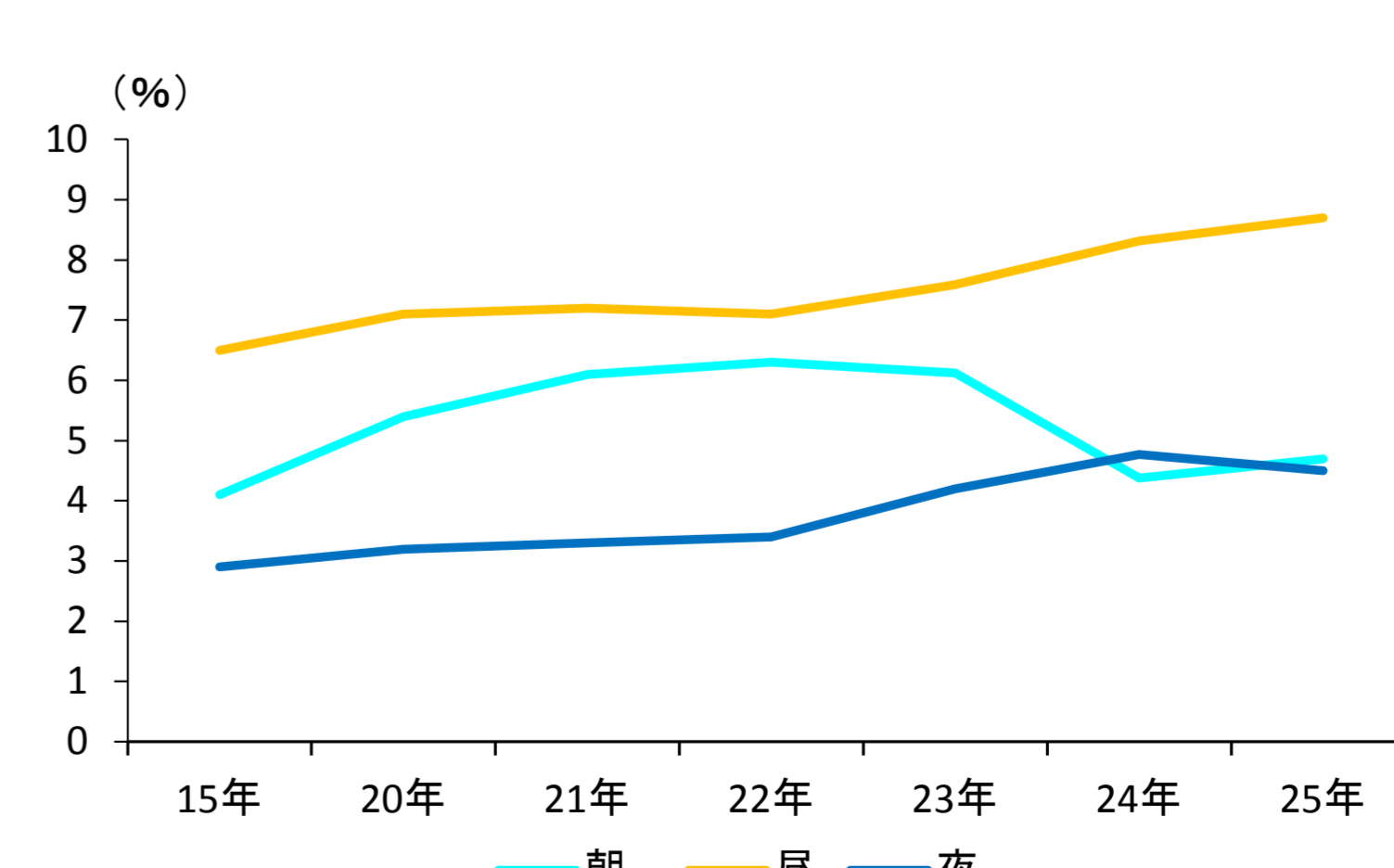


資料：厚生労働省「平成25年国民健康・栄養調査」
注：調査日は、平成25年11月中の日曜日及び祝祭日を除く任意の1日

品目別摂取状況(1日当たり)



1日の食事における調理済み食の割合



●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜供給部 供給業務課 戸田、河原、齋藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。